



ハタハタ 日本海西部系群 令和4年度資源評価結果

生物学の特性

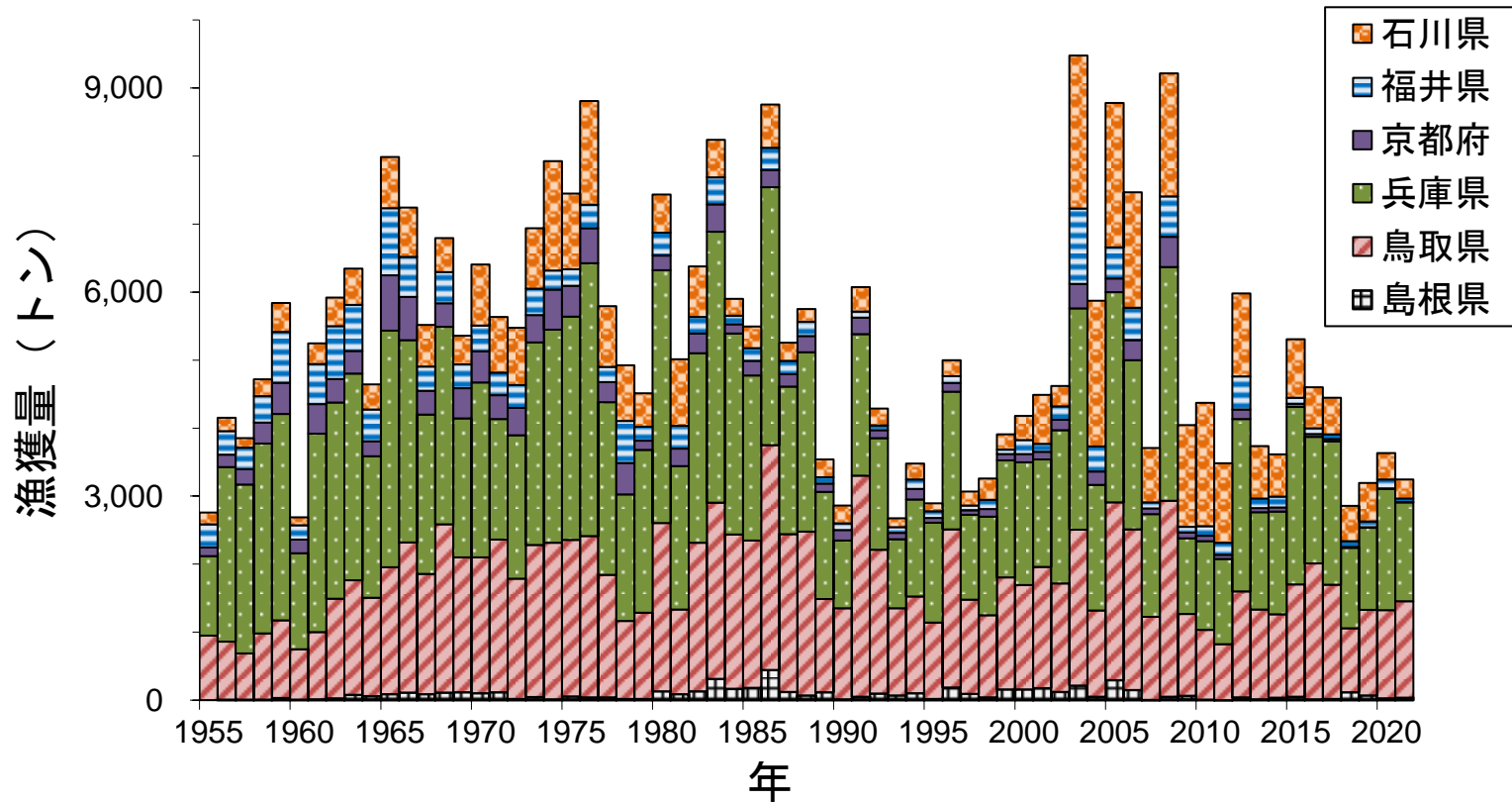


生物学の特性

- 寿命：5歳
- 成熟開始年齢：
雄1歳（50%）、2歳（100%）
雌2歳（100%）
- 産卵期・産卵場：
12月、秋田県および青森県沿岸、
朝鮮半島東岸
- 食性：
端脚類、橈脚類、オキアミ類、
イカ類、魚類
- 捕食者：
マダラ、アカガレイ

- 主漁期は3～5月で9～10月も漁獲されるが春より少ない

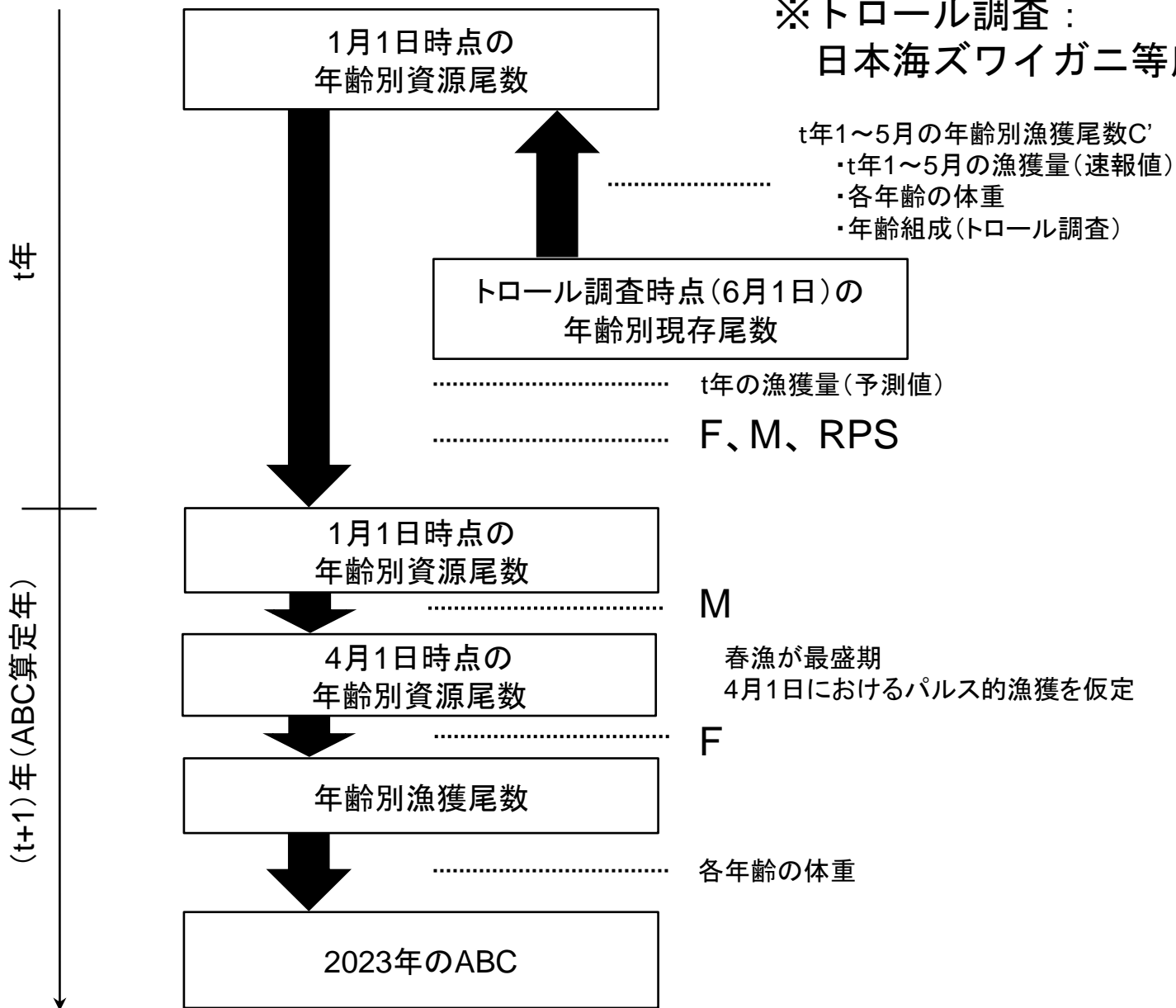
漁獲の動向



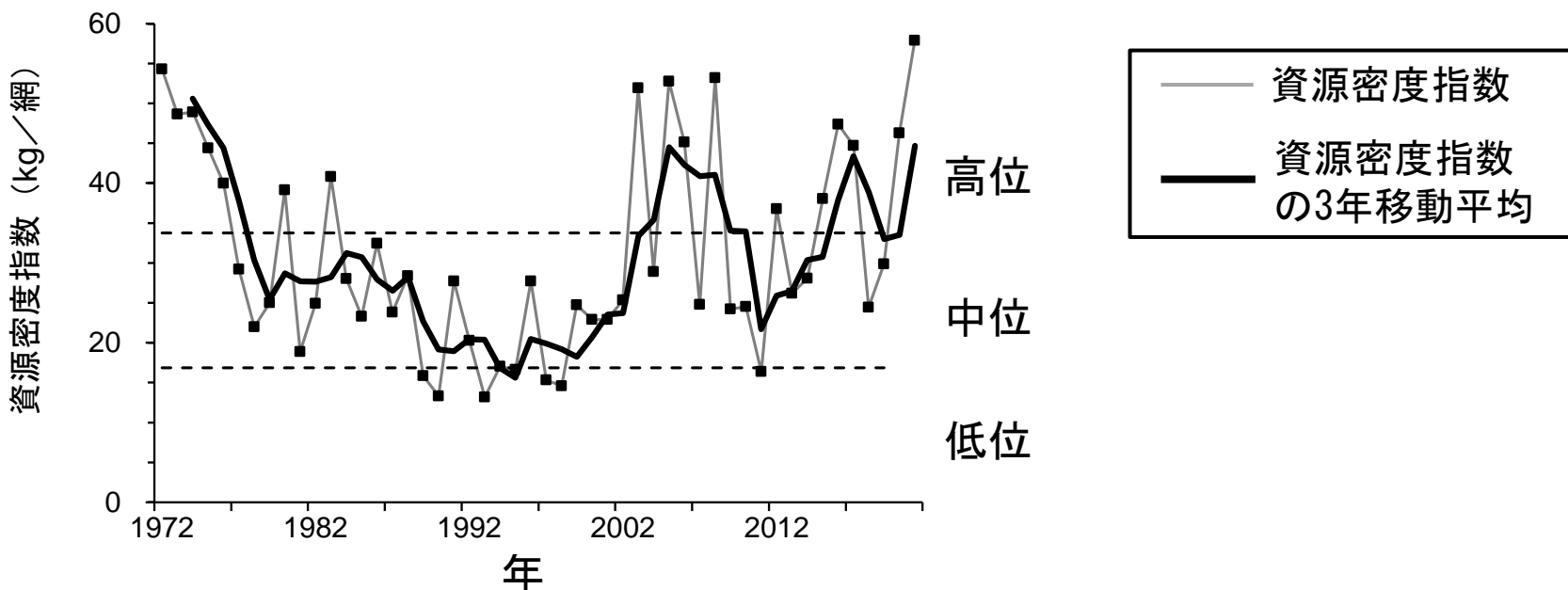
- 2021年の漁獲量：3,245トン（2020年：3,635トン）
- 主な漁獲：兵庫県、鳥取県、次いで石川県
- 兵庫県と鳥取県は全て沖合底びき網1そうびき（以下、沖底）
石川県、福井県、京都府、島根県は小型底びき網が多い

資源評価の流れ

※トロール調査：
日本海ズワイガニ等底魚資源調査



資源の動向①

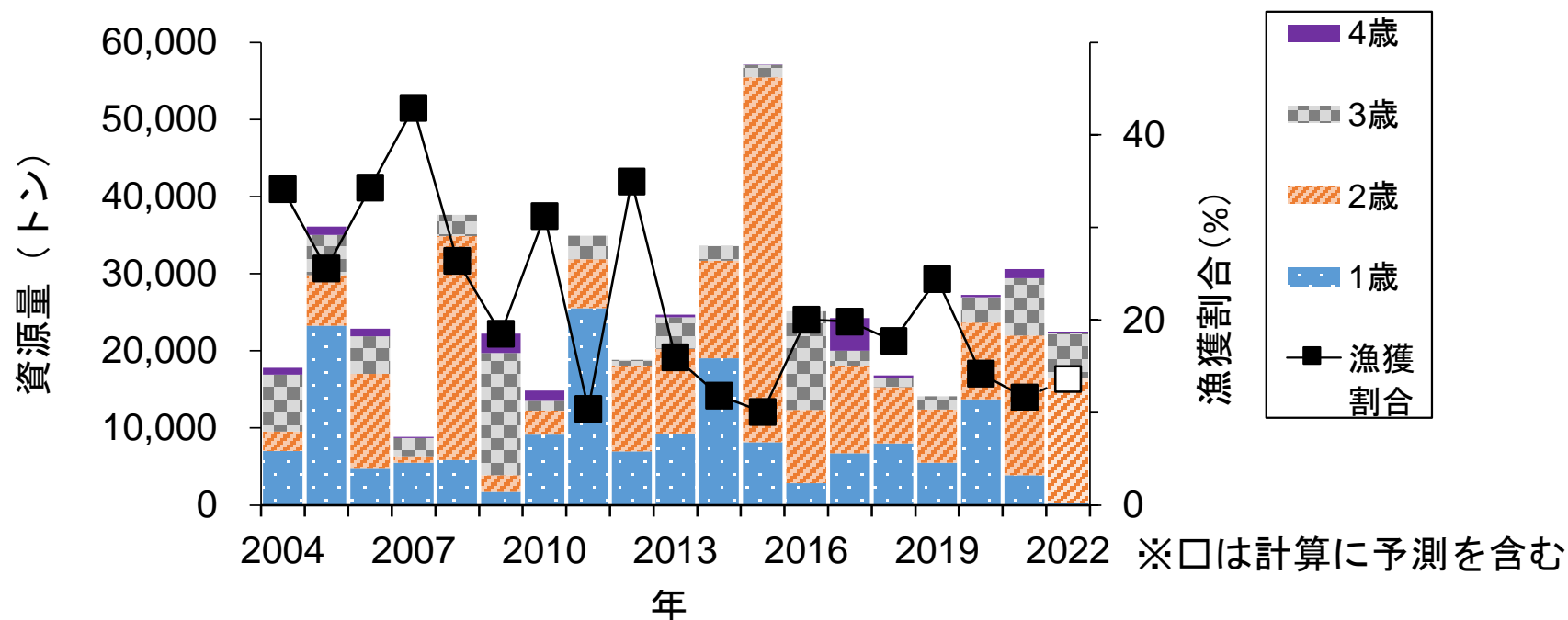


※水準区分：資源密度指数 B_t の3年移動平均値 $((B_{t-2}+B_{t-1}+B_t) \div 3)$
低位/中位：資源密度指数16.9、中位/高位：資源密度指数33.7

- 沖底の資源密度指数：
1970年代前半は50前後だったが、1993年に13.2となり
2003年以降は20～50前後で大きく増減、2021年は57.9
- 資源水準：直近3年間（2019～2021年）の資源密度指数の平均（44.7）から「高位」

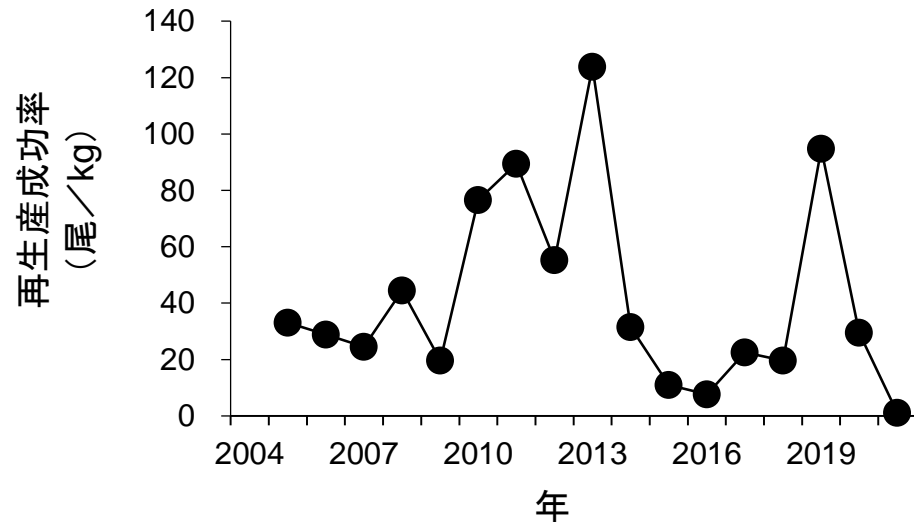
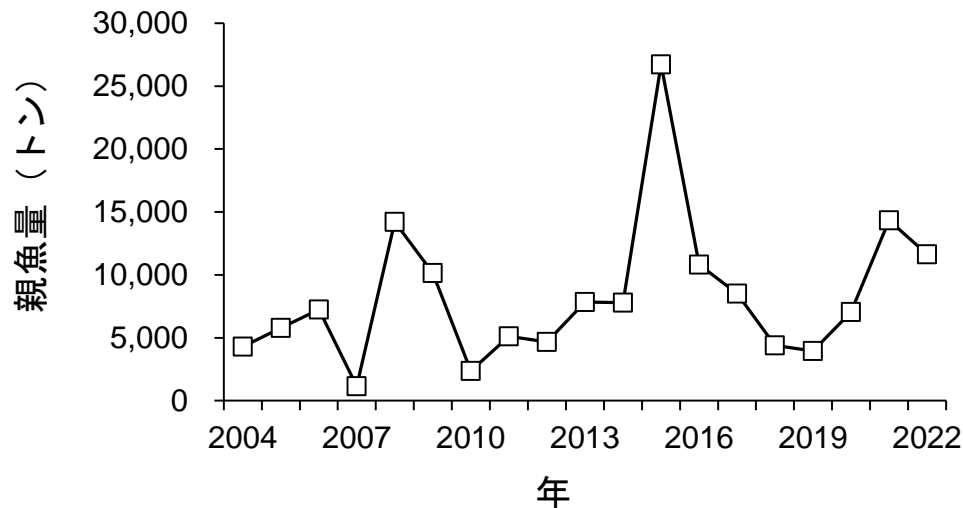
※資源密度指数：ハタハタが漁獲された月・漁区における1網当たり漁獲量の平均値

資源の動向②



- トロール調査に基づく資源量：2004年以降0.9万～5.7万トンと大きく変動
- 2022年資源量：2.2万トン
- 資源動向：直近5年間（2018～2022年）の資源量は減少後に増加しており「横ばい」
- 漁獲割合：2015年まで大きな変動を伴いつつ低下
2016年（20%）上昇後、徐々に低下し、2022年は14%

資源の動向③



- トロール調査に基づく親魚量：
0.1万～2.7万トンで推移、2022年は1.2万トン
- 再生産成功率：
2010年以降高くなり、2013年に過去最高
2014～2018年は低く推移、2019年は上昇、2020年は低下
2021年は過去最低の1.1（尾/kg）

※再生産成功率：単位親魚量あたりの加入尾数（尾/kg）であり、ハタハタ日本海西部系群では翌年加入量（1歳魚）を前年親魚量で除した値で示している

資源評価のまとめ

- 沖底の資源密度指数（3年移動平均）より、資源水準は「高位」
- トロール調査により推定した資源量より、動向は「横ばい」

2023年ABC

管理基準	Target/ Limit	2023年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値からの 増減%）
Fcurrent	Target	29	11	0.11 (-20%)
	Limit	36	13	0.14 (±0%)

- Fcurrent：直近3年間（2020～2022年）の漁獲圧（F値）の平均
- 現状の漁獲圧（Fcurrent=0.14）で資源量は維持される
- 2021年級群の豊度は1歳時点では過去最低
- 漁獲圧が現状より高まらないよう配慮し、資源量を維持すべき